

伊丹市 ^{こやいけ} 昆陽池公園における自然環境再生の取り組みについて

村上敦子（伊丹の自然を守り育てる会）

はじめに

「伊丹の自然を守り育てる会」（会長 服部 保）は伊丹市と協働で昆陽池公園を中心に自然環境の保全・再生に取り組んでいる市民団体です。川・森・池の三部会に分かれ、活動を行っています。

川部会は公園内の水路を活用し、ホタル再生事業をはじめ、水生生物の環境づくりに、森部会は池の中央部にある野鳥の島においてカワウによって枯死化が進んだ樹林再生や池周辺部の樹林帯の管理に、池部会ではヨシ原の再生や伊丹の希少植物であるオニバス・デンジソウの保護・増殖に取り組んでいます。

オニバスとは

オニバスはスイレン科の1年生の大型の水草です。葉は直径1mを超えるものもありますが、花は大きさ3～5cm程の紫色の小さな花です。昔は各地のため池などに生育していましたが、ため池の埋め立てや水質悪化の影響で減少し、現在、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）、兵庫県のレッドデータブックでBランク（絶滅の危険が増大している種）に指定されています。



オニバスの花

伊丹におけるオニバスは自生地であった黒池・西池でも2002年を最後に確認されていません。

オニバス再生に向けた取り組み

2002年を最後に発生が確認されなくなった黒池・西池から市民団体の「あーす・いたみ」が2005年2月に地権者の了解を得て、15個の埋土種子を採取、それらを植木鉢などに播種、種子を増やす取り組みを始めました。2006年からは伊丹の自然を守り育てる会があーす・いたみの活動を引き継ぎ、市と連携し、昆陽池公園などにおいて、オニバス再生に向けた活動を開始しました。オニバスの保護・増殖には、種子の確保が不可欠です。オニバスの種子は発芽率が悪く、1鉢に20～30個播種しても発芽するのは1～2株程度、全く発芽しないことも珍しくありません。これまで、大型のプラスチック水槽や既存水路の一部を利用、植木鉢やベビーバスでオニバスを栽培し、種子数の増加を図ってきており、2009年分では2029個、2010年分では2037個の種子を確保することができました。

将来に向けた取り組み

2010年には池の一部を石堤で締め切ったオニバス池で、種子の直播やポット苗を植えつけることで自然に近い状態でオニバスの生育が確認できました。これも2009年の同箇所での一夜にしてオニバスの葉がなくなるという体験が教訓となり、オニバス植付箇所の周囲をトリカルネットで囲むことでアメリカザリガニなどの外敵からオニバスの幼葉を守ることができたことが大きな要因だと考えています。8月の終わりには最大直径1.5mまで葉を広げ、昆陽池で初めてのオニバス観察会を開催しました。



成長したオニバス葉（直径1.5m）

最後に

この活動には市内の小中高校の協力をいただいています。小学校には校内の池などでオニバスの栽培に、中学・高等学校にはオニバスの栽培だけでなく、種子採取や播種作業にも参加いただいております。地域や年齢を超えた多くの方にオニバスの存在を知ってもらうこともオニバス再生に向けた重要な取り組みだと考えています。